

全ゲノム解析はどのように作物育種に 利用できるのか？

山本英司

農研機構・作物研究部門・作物遺伝子機能評価グループ

2025 年 6 月12日（木）

16:00-17:30 農学部 第8講義室

2010年代に次世代シーケンシング

（NGS）技術が普及して以降、数万から数十万に及ぶDNAマーカーを迅速かつ効率的に開発できるようになり、ゲノム情報を活用した作物育種の在り方も大きく変化すると期待されている。しかし、NGSはあくまでDNA配列解析の技術であり、個々の作物育種が抱える課題を一律に解決するものではない。

本セミナーでは、演者がこれまで関わってきた作物育種における全ゲノム解析の活用事例を紹介する。特に、全ゲノム情報に基づく表現型予測（ゲノミック予測）について、実際の育種現場への実装に向けた取り組みと、そこから明らかになった課題についても紹介する。



Contact:生物センター 芦荻基行 (ashi@agr.nagoya-u.ac.jp)